

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和5年度病害虫発生予報第9号 (12月)

令和5年度病害虫発生予察注意報第15号

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-62-0085
内 線 471
ファックス 0561-63-7820

令和5年度病害虫発生予報第9号 (12月)

令和5年12月4日
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量はハクサイほ場で平年並、キャベツほ場でやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	－～± ±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	黄化葉巻病	多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い 11月下旬のコナジラミ類の発生量はやや多い	＋ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
トマト (施設)	コナジラミ類	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い	+
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	-
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない 12月の日照時間は平年並か少ない	- ±~+
	ミナミキイロアザミウマ	多い	県全域	11月下旬の発生量は多い	+
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い 12月の日照時間は平年並か少ない	+ ±~+
	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[トマト・黄化葉巻病、コナジラミ類]

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第15号」を参照してください。

[キュウリ、ナス・ミナミキイロアザミウマ]

本日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第1号（キュウリ・ナス）」を参照してください。

[イチゴ・灰色かび病]

多湿条件で多発するので、日中の換気と夜間の保温管理に注意しましょう。セイビアーフロアブル20やケンジャフロアブルなどで薬剤防除しましょう。

・留意事項

ハクサイべと病は、病斑上にできる分生胞子によって伝染します。発病葉等を見つけたら速やかにほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。

キャベツ菌核病の発病株は伝染源となるので、菌核を形成しないうちに抜き取り、ほ場外に深く埋めるなど適切に処分しましょう。

施設野菜では、この時期、保温のため施設を閉め切ると湿度が高くなり、灰色かび病が発生しやすい条件となります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて施設外に持ち出し、適切に処分しましょう。

本県におけるトマトキバガのフェロモントラップ誘殺の初確認については、10月23日発表の「令和5年度発生予察特殊報第1号」でお知らせしたところです。今後、本虫による施設トマトへの被害が懸念されます。ほ場での被害が見られた場合は病害虫防除室かお近くの農業改良普及課へお知らせください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 11月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：40% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。